



平成24年度 ブラジル通信
 9月10日(月)~9月16日(日)
 No. 2
 発行者：宮本 朋子

帰国児童生徒への支援を考えて...

毎日バスに乗っていると、若者がお年寄りや子どもを連れた女性に席をゆずる場面をよくみかけます。また、切符売り場やお店でもお年寄りがいれば、たとえ列の一番後ろにいても「先にどうぞ」と声をかけています。当たり前なのかもしれませんが、そんな光景をブラジルではよくみかけ、心がホッと温かくなります。一方で、貧富の差が激しいブラジルでは、スリや泥棒がとても多いそうです。先日、私の知り合いも銃で脅され、車を盗まれてしまったそうです。いつどこで何が起こるかかわからないので、私も今以上に周囲に気をつけて生活していこうと思いました。



クリチバ市教育局

女性が多く、忙しく働いていました



クリスさん

先週は、州立学校を訪問したので、今週は、市が管轄する初等学校（1年生～5年生）を訪問しました。その際、クリチバ市教育局の外国語担当のクリスさんと話をすることができました。

Prof. Brandão 初等学校の先生と

クリチバ市では、外国からの帰国児童に対する指導法について、研修を行っているそうです。ただ、現場の先生の中には、子どもの語学適応力は高く、友だちが教えると覚えるのも早いため、特別な支援は必要ないと考えている先生も多いです。しかしながら、それはアルファベットを使用する子どもに多くみられ、アジア系の子どもに対しては、ポルトガル語を外国語として教える必要があるのです。クリスさんも、個別のポルトガル語学習の体制化や通訳の配置の必要性を強く感じていました。話し合っていく中で以下の案があがり、現場で必要としているものはどこも同じだと思いました。しかし、ブラジルの教育局では、帰国児童生徒数や抱えている問題等を把握していません。そこで、クリチバ市教育局に実態把握アンケートの実施を依頼したところ、快く協力してくれることになりました。

しかし、昨年度、州立学校を対象に実施したアンケートでは、回答率が10%にも満たなかったため、実態を把握するまでとはいきませんでした。そこで、州政府の国際関係担当のニコレーさんに相談をしたところ、回答率をあげるため、パラナ州教育局長からの正式文書として扱ってもらえるよう、約束してくださいました。州政府としても、帰国児童生徒の問題は重く受け止めているようですが、そのための政策や支援体制は全く進んでいません。その一助となるよう、私の担当であるホーじさんと協力して、アンケートの修正を行いました。また、帰国児童生徒がいるのに「いない」と回答した学校が多かったこともあり、今回は、学校側が正確に調査できるように、詳しい調査方法も添付することにしました。

- ・バイリンガル語学相談員や心理学者の巡回サポート
- ・学校間の情報交換会
- ・教育局に日本語担当部門設置
- ・学校が自由に利用できる翻訳文書や教材の掲載HP

現場の声と協力でアンケートは完成しましたが、残念ながらパラナ州教育局の教育政策プログラム課長の賛同は得られず、アンケートは実施できませんでした。麻薬や校内暴力など、解決すべき問題を多く抱えているため、日本からの帰国児童生徒に関しては、あまり問題視していないように感じ、とても残念に思いました。州教育局と現場との温度差を感じました。

現場の声と協力でアンケートは完成しましたが、残念ながらパラナ州教育局の教育政策プログラム課長の賛同は得られず、アンケートは実施できませんでした。麻薬や校内暴力など、解決すべき問題を多く抱えているため、日本からの帰国児童生徒に関しては、あまり問題視していないように感じ、とても残念に思いました。州教育局と現場との温度差を感じました。



多方面から協力してくれたニコレーさんとホーじさん

クリチバ帰国者の会 開催!

2週間のクリチバでの活動で、合計29名（大人4名、子ども25名）の日本からの帰国者と面談しました。その中で、日本の学校で勉強し、この2・3年の間に帰国した10～15歳の子どもたちが、言葉がわからず、学校生活にあまり適応できていないことがわかりました。また、同じ経験をした、日本語を話せる友達をほしがっていたこともあり、急ぎよ帰国者の会を開くことにしました。ブラジル出稼ぎ協会（ABD）に協力してもらい、昨年度面談した人と、今回支援を必要としていると感じた人に声をかけました。

当日は、心理学者の山脇先生も参加してくれ、合計11名が日本での思い出話に花を咲かせました。参加した保護者は、「日本語が話せて、子どもがいつも以上に生き生きしている」と、嬉しそうに話してくれました。中にはメールアドレスを交換し合う姿もみられ、またこのような機会があれば参加したいとの声もあがりました。今回協力してくれたABDに、この会の継続依頼をしましたが、会の企画・運営をボランティアでしてくれる人、またはグループがいなければ難しいとのことでした。昨年度結成したパラナヴァイ支援団体のようなグループが必要だと思いました。



久しぶりの日本語での会話に盛り上がりました!

外国語としての日本語教育

ブラジルでは、日本の文化や言語に興味をもっている人が多くいます。今回、外国語として日本語教育を行っている文協（クリチバ日伯文化援護協会 日本語講座）とCELEMを訪問しました。

文協では、児童4クラス、成人9クラスの140人の生徒が勉強しています。単式で授業が行われているため、日本語能力試験に9割の生徒が合格するほどレベルの高い学校です。また、ポルトガル語教室も併設されており、帰国者にとっても、学習環境の整った学校でした。



1課ごと整理して
ファイリング



絵カードや学習プリント
が収納されています



CELEM

週2回の授業が楽しいよ

一方、CELEMは、州立学校に併設されている外国語教室です（H23通信14号で紹介）。日本語は、3年コースですが、途中でやめてしまう生徒が多いようで、今年度は、1・2年生しかいませんでした。生徒のほとんどは高校生で、現在の科学技術が発達した日本より、日本の古き伝統文化が好きだと話してくれました。日本の教育にも関心があるようで、たくさん質問を受けました。



またまた ぶらっとブラジルク・イ・ス♪

クリチバ市内を歩いていると、灯台の形をした建物をよく見かけます。
ここで問題! この建物は一体何でしょう?

- ①消防署 ②図書館 ③電波塔



答え: ② (この建物は、公立小学校に隣接して建てられており、「知識の灯台」と呼ばれています。その昔、灯台の光のもとで読書が始まったことにちなんで建てられました。一種の公共図書館で、児童生徒の教養を高めるだけでなく、子どもたちが放課後を過ごす場所としての役割も担っているそうです。)